

- ※ 豊かな土壌
- ※ 稲穂
- ※ 人
- ※ 技術
- ※ お金

1. 価値基準の中心は、人です。

中でも、放射線の影響を受けやすい、子供や若い女性は、特に優先して守るべきです。

これは、人は自分自身よりもコミュニティーの存続を優先するという考え方からも、当然に導き出される結果である。

つまり、コミュニティーの存続のために、若者や子供達を優先して守るべきというのが、全ての価値基準の中心となっています。

2. 食料が無ければ、人は生きていけません。お米を中心とした様々な農作物、山菜や肉や魚といった存在が、我々に日本人として生きる根拠を与えてくれます。

ここでは、天照大神が「これを日本人の主食としなさい」といわれたことから、稲穂と表現しています。

3. 稲穂を育む豊かな土壌です。豊かな自然、清らかな川や海。よく整備された田畑といった存在が、お米や農作物、山菜や肉、魚といった全てに生きる根拠を与えています。

つまり、これらの存在が、我々の最も守るべき、最も大切なものであり、これらを汚すことが、最も大きな罪となります。

4. 技術とは、鋤や鍬といった農具に始まり、コンピュータや飛行機といったあらゆる人造物だけにとどまらず、規則や法律といった、無形の物までを含めて指します。

これらの中には、我々が生活をする上で欠かせない、とても大切な物も含まれていますが、人が存在があり初めて存在しうるものであるため、その優先順位は人より下となります。

5. お金は、技術に含めることも出来るが、その存在は、交換可能な万物との代替物としてのものであり、交換可能な万物の存在の上に成り立つことから、優先順位はそれよりも下となる。従って、交換可能でない技術の中には、お金と同等か、それ以下の価値の物も存在するため、必ずしも技術よりも優先順位が下であるということはいえない。

物事のスムーズなやり取りを促してくれる安定した通貨の運用は、我々に巨大な富を与えてくれる可能性を秘めています。

とりあえず、基本的には以上のような形となります。

よくある極論で、自然を守る為に、人は居なくなった方が良いというものがありますが、この価値基準の中ではそのような事はありえません。価値基準の中心が人であるからです。

また、最上位に来るのが、稲穂を育む豊かな土壌となっている時点で、技術の存在が大前提となっており、一見矛盾があるような構成になっています。

実際には複雑な相関関係の中にある為、何をどのようにして守るのか、その時々状況に応じて考えなければなりません。

例えば、明治維新以降、日本は急速に近代化を図ってきましたが、その影では、多くの人命や、多くの自然も犠牲になってきたことでしょう。しかし、外敵から日本の自然を守ったという事になれば、全ての犠牲を正当化することが可能になるのです。

いくら必死で人命を守っても、環境が悪過ぎれば、成す術がないという事もありえるでしょうし、逆に、人命さえ守ることが出来れば、残された環境から、何らかの糸口を見つけることが出来るかもしれません。

人命よりも環境を優先する手法は、結果的に視野を広げる意味でも有効で、長期的な目線で人命を守ることに繋がります。。安全確保という意味においてもこの手法は、広く応用可能なものといえるでしょう。

- ※ 自然
- ※ 食料
- ※ 人
- ※ 技術
- ※ お金

1. 価値基準の中心は、人です。

中でも、放射線の影響を受けやすい、子供や若い女性は、特に優先して守るべきです。

これは、人は自分自身よりもコミュニティーの存続を優先するという考え方からも、当然に導き出される結果である。

つまり、コミュニティーの存続のために、若者や子供達を優先して守るべきというのが、全ての価値基準の中心となっています。

2. 食料が無ければ、人は生きていけません。お米を中心とした様々な農作物、山菜や肉や魚といった存在が、我々に人として生きる根拠を与えてくれます。

3. 豊かな自然、清らかな川や海。よく整備された田畑といった存在が、お米や農作物、山菜や肉、魚といった全てに生きる根拠を与えています。

つまり、これらの存在が、我々の最も守るべき、最も大切なものであり、これらを汚すことが、最も大きな罪となります。

4. 技術とは、鋤や鍬といった農具に始まり、コンピュータや飛行機といったあらゆる人造物だけにとどまらず、規則や法律といった、無形の物までを含めて指します。

これらの中には、我々が生活をする上で欠かせない、とても大切な物も含まれていますが、人が存在があり初めて存在しうるものであるため、その優先順位は人より下となります。

5. お金は、技術に含めることも出来るが、その存在は、交換可能な万物との代替物としてのものであり、交換可能な万物の存在の上に成り立つことから、優先順位はそれよりも下となる。従って、交換可能でない技術の中には、お金と同等か、それ以下の価値の物も存在するため、必ずしも技術よりも優先順位が下であるとは言えない。

物事のスムーズなやり取りを促してくれる安定した通貨の運用は、我々に巨大な富を与えてくれる可能性を秘めています。

とりあえず、基本的には以上のような形となります。

よくある極論で、自然を守る為に、人は居なくなった方が良くというものがありますが、この価値基準の中ではそのような事はありえません。価値基準の中心が人であるからです。

また、最上位に来るのが、整備された田畑を含む自然であり、技術の存在が大前提となっており、一見矛盾があるような構成になっています。

実際には複雑な相関関係の中にある為、何をどのようにして守るのか、その時々状況に応じて考えなければなりません。

例えば、明治維新以降、日本は急速に近代化を図ってきましたが、その影では、多くの人命や、多くの自然も犠牲になってきたことでしょう。しかし、外敵から日本の自然を守ったという事になれば、全ての犠牲を正当化することが可能になるのです。

いくら必死で人命を守っても、環境が悪過ぎれば、成す術がないという事もありえるでしょうし、逆に、人命さえ守ることが出来れば、残された環境から、何らかの糸口を見つけることが出来るかもしれません。

人命よりも環境を優先する手法は、結果的に視野を広げる意味でも有効で、長期的な目線で人命を守ることに繋がります。安全確保という意味においてもこの手法は、広く応用可能なものといえるでしょう。